



# 学校だより

令和2年 9月30日

10月号

めざす子ども像  
ともに学び、よりよい生き方を見つけ出すしるさとっ子

横浜市立城郷小学校

## 運動会を振り返って

校長 巴 幹晴

今から1か月前。9月1日の朝会。コロナ禍がなければパラリンピックが開催されていたであろう時期だったので、私は「パラリンピックの始まり」の話をしました。

『戦争で障害をもつこととなった人たちの治療を通じて、心身両面のリハビリテーションにスポーツが最適であると考えたイギリスの病院の医師ルートヴィヒ・グットマンさんは、車椅子を使う患者によるアーチェリー競技会を行いました。競技会は、回を重ねるにつれて国際大会となり、やがてパラリンピックへと発展しました。グットマンさんは、「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ。」と患者に言葉をかけていたそうです。今、私たちも新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、様々な制約を受け、できなくなったことがたくさんあるけれど、悲しんでばかりいないで、できることを精一杯しましょう。』

9月中、コロナ禍に加え、前半は熱中症予防、後半は降雨との調整により、校庭での練習は限られた時間のみとなりました。体育館での練習は「密」を避け、1クラスごとに短時間で行い、教室でのイメージトレーニングなどで補ったことでしょう。そんな中でも子どもたちは一生懸命に練習に取り組みました。1回ごとの練習を大切に、集中して取り組んでいました。その成果が凝縮され、本番で表れていました。

様々な制約のかかる中で、6年生には行事運営に携わり、自分たちの手で運動会をつくりあげる経験をしてもらいたいと考えました。「運営係」「応援団」「着順係」「放送係」「保健係」「レース案内係」「新聞・広報係」それぞれの係が準備や練習を重ね、運動会がスムーズに進むようにきびきびと働いたり、盛り上げるために動いたりしました。力を合わせ自分の役割を果たすことで運動会は成功しました。6年生の力です。

今まで経験したことのない運動会でしたので、準備を進めながら様々な工夫を加えました。「一人一人の姿をしっかりと観られるように演技する場所と保護者との距離を縮めてみよう。」「卒業アルバム用に撮影に来る写真屋さんにカメラマンを増員してもらって、インターネット販売をしてもらおう。来られなかった家族にも会場の雰囲気や伝わるかもしれない。」など、一家庭一人制限について、少しでも補えると思うことを順次実行、交渉してみました。

どうしても気になっていたのが、発表ブロックを分けたことで、運動会の一体感がなくなってしまうことでした。実現できるかどうか直前まで確かめられず、お知らせできませんでしたが、校庭の様子は体育館窓のカメラから教室のテレビに生中継していました。教室では画面を通して、これまで観ることのなかった高い位置からの映像を観て感じたことの感想が聞かれたようです。今年度より始めた「自分づくりパスポート※」の記入とともに、一人一人が新しい運動会のあり方にひたった一日となりました。

保護者の皆様の様々な形でのご協力に対し、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今月も本校教育活動に、地域・ご家庭でのご協力をお願いいたします。

自分づくりパスポート※……学校生活の様々な場면을きっかけとして、自分のよさや可能性に気づきそれを発揮できるように、目標や振り返りを記入するものです。



いちぼん

さくぼん

しるさとゼロいちにいぜろ  
城郷0120